

2020年3月期 決算説明資料



2020年5月27日

株式会社 **ダイセル**

目次

1. 新型コロナウイルス感染症への対応	P. 3
2. 2020年3月期 決算	P. 7
3. 2021年3月期 業績予想	P. 9
4. 次の成長に向けた取り組みの状況	P. 12
5. 株主還元	P. 14
6. 参考資料	P. 15

本資料に記載の2020年3月期数値は、監査法人の監査前の数値であります。

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、罹患された皆様および、感染拡大により困難な生活環境におられる皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

感染の拡大については鈍化の兆候もみられますが、しっかり鎮静化したことを確認するまでは、3密対策を確実に取り続けることが重要だと考えています。また、経済への影響として、しばらくは厳しい経済環境が続くことに加え、社会に大きな変化が起こることが予想されます。

このような状況の中、当社では、従業員の安全と、工場の操業・事業の継続を維持できるよう、従業員の感染防止を徹底し、次の三つの観点から、新型コロナウイルスの影響下での取り組みを進めています。

(対応方針)

- ① 景気低迷に対する足元固め
- ② 新型コロナウイルス対策への貢献
- ③ 新型コロナウイルス収束後の景気回復への備え

対応方針とアクション

① 景気低迷に対する足元固め

- ・ 不急な投資案件の取り止め（安全品質に関わる投資を除く）
- ・ 従来のコストダウンに加え、更なるコストダウンの徹底
⇒テレワークによる出張の削減など
- ・ 在庫の削減
- ・ アセットの削減
- ・ 手元流動性資金の確保、債権債務管理の徹底など、キャッシュ・フローの改善

② 新型コロナウイルス対策への貢献

- ・ 3密回避の徹底による当社関係者による感染拡大の防止
- ・ 新型コロナウイルスのワクチン治験に当社の投与デバイスを提供
- ・ 抗生物質原料を増産
- ・ 原料用バイオエタノールを消毒液として提供
- ・ 自治体や大学などへのマスクの寄付

③ 新型コロナウイルス収束後の景気回復への備え

- ・ ワークスタイルの変革と対応
⇒感染拡大防止対策として実施している在宅勤務などから得られた教訓を、今後のダイバーシティ施策に活かし、人事制度や評価制度に反映
- ・ サプライチェーンの見直し
- ・ 次の成長に向けた取り組みの着実な実施

感染防止対策

外出を自粛するため、本支店勤務者は原則在宅勤務とし、工場勤務者についても対象者を定め在宅勤務を実施しております。また、工場の一部プラントにおいて、操業停止やブロック運転を適用しております。

各事業場への入場者の検温実施とマスク着用の徹底、出社が必要な業務について担当者を班分けし、勤務場所、時間を分散するなど、3密回避による感染拡大防止に努めております。

生産の状況

行政機関からの要請により、一時稼働を停止した海外拠点がありましたが、現在は全ての拠点が稼働しています。但し、需要の減少などにより、インフレータ、エンジニアリングプラスチックの生産は稼働率が低下しております。たばこフィルター用トウについては、フル稼働を継続しております。

業績への影響

2020年3月期

※影響の大きさ：☁ < ☁ < ☔ < ☔

セルロース	☁	液晶フィルム用途の酢酸セルロースに若干の販売減少があったものの、大きな影響はなし
有機合成	☁	化粧品向けなど一部で影響はあったものの、お客様での在庫確保などもあり、大きな影響はなし
合成樹脂	☔	中国におけるエンジニアリングプラスチックの需要が急速に減少し、販売が減少
火工品	☔	自動車生産の減少、米中での行政機関からの要請に伴う稼働停止などにより、販売が減少

2021年3月期

※新セグメントについては、9ページを参照ください

メディカル・ヘルスケア	☁
スマート	☁
セイフティ	☔
マテリアル	☔
エンジニアリングプラスチック	☔

自動車の世界的な減産が起こっており生産台数が大幅に減少する見込みですが、どの程度の減産になるかの予想は現時点では困難であります。また、電子デバイス市場においても、スマートフォンの生産台数が大幅に減少するなど、需要の減少が見込まれます。インフレータ、エンジニアリングプラスチック、有機機能品などの販売が大きく減少する可能性があります。

たばこフィルター用トウについても、景気悪化・雇用不安、免税店の利用減少などによりたばこ需要が減少し、販売が減少する可能性があります。

2020年3月期 業績

(単位：億円)

		19/3 実績	20/3 予想	20/3 実績	前年度比		予想比	
					増減	%	増減	%
売上高		4,649	4,200	4,128	△ 520	△11.2%	△ 72	△1.7%
営業利益		512	310	296	△ 215	△42.1%	△ 14	△4.4%
経常利益		534	325	318	△ 217	△40.5%	△ 7	△2.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益		353	70	50	△ 303	△85.9%	△ 20	△28.9%
為替レート USD/JPY		111	108	109				
セルロース	売上高	832	755	757	△ 75	△9.0%	+2	+0.3%
	営業利益	160	110	115	△ 45	△28.3%	+5	+4.3%
有機合成	売上高	895	810	801	△ 94	△10.5%	△ 9	△1.1%
	営業利益	144	105	101	△ 43	△29.8%	△ 4	△3.8%
合成樹脂	売上高	1,759	1,685	1,658	△ 101	△5.7%	△ 27	△1.6%
	営業利益	206	211	201	△ 5	△2.5%	△ 10	△4.7%
火工品	売上高	1,079	850	813	△ 266	△24.7%	△ 37	△4.4%
	営業利益	156	43	35	△ 121	△77.7%	△ 8	△19.3%
その他	売上高	84	100	99	+15	+18.2%	△ 1	△1.2%
	営業利益	6	4	4	△ 2	△37.2%	△ 0	△7.5%
全社	営業利益	△ 160	△ 163	△ 159	+2	+1.0%	+4	+2.6%

(前年度比)

中国の景気減速の影響、インフレーションの販売数量減少や販売品種構成の変化、酢酸セルロースの販売数量減少、為替影響、などに加え、第4四半期での新型コロナウイルスの影響により、減収、営業利益は減益となりました。

また、下期において、火工品事業で特別損失(減損損失)を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は大幅な減益となりました。

(予想比)

第3四半期決算時発表の予想には新型コロナウイルスの影響は織り込まれていませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う中国での需要減少により、インフレーションやエンジニアリングプラスチックなどの販売数量が減少し、減収減益となりました。

セグメント別 売上高・営業利益（前年度比）

（単位：億円）

売上高	2019/3 実績	2020/3 実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
セルロース	832	757	△ 75	△9.0%	△ 56	△ 19	△ 10
有機合成	895	801	△ 94	△10.5%	△ 39	△ 55	△ 5
合成樹脂	1,759	1,658	△ 101	△5.7%	△ 38	△ 62	△ 18
火工品	1,079	813	△ 266	△24.7%	△ 231	△ 36	△ 10
その他	84	99	+15	+18.2%	+15	-	-
合計	4,649	4,128	△ 520	△11.2%	△ 348	△ 172	△ 44

営業利益	2019/3 実績	2020/3 実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	価格影響の内 為替影響	その他
セルロース	160	115	△ 45	△28.3%	△ 47	△ 12	△ 8	+13
有機合成	144	101	△ 43	△29.8%	△ 22	△ 16	△ 2	△ 5
合成樹脂	206	201	△ 5	△2.5%	+8	+10	△ 5	△ 23
火工品	156	35	△ 121	△77.7%	△ 157	△ 17	△ 0	+52
その他	6	4	△ 2	△37.2%	△ 2	-	-	-
全社	△ 160	△ 159	+2	+1.0%	-	-	-	+2
合計	512	296	△ 215	△42.1%	△ 220	△ 35	△ 14	+39

新開示セグメントの概要

2021年3月期より、開示セグメントを変更いたします。

新セグメント	旧セグメント／主な製品	
メディカル・ヘルスケア	有機合成	化粧品原料（1,3-BG、ポリグリセリン類） 健康食品（エクオール、セラミド） キラルカラム、高純度キラル試薬
	その他	製剤ソリューション（プレミックス添加剤）
	セルロース	液晶保護フィルム用酢酸セルロース
	有機合成	半導体レジスト、電子材料向け溶剤
スマート	合成樹脂	高機能光学フィルム
	その他	光学デバイス、有機半導体デバイス
	火工品	自動車安全部品、民生用火工品
セイフティ	合成樹脂	樹脂コンパウンド製品（自動車用途）
	セルロース	酢酸セルロース（液晶保護フィルム用途以外） たばこフィルター用アセテート・トウ
マテリアル	有機合成	酢酸、酢酸誘導体 エポキシ化合物、カプロラクトン誘導体
	セルロース	エンジニアリングプラスチック 樹脂コンパウンド製品（自動車用途以外） 樹脂成型加工品（シート、食品包装用フィルム）
	その他	水溶性高分子
エンジニアリングプラスチック	合成樹脂	エンジニアリングプラスチック 樹脂コンパウンド製品（自動車用途以外） 樹脂成型加工品（シート、食品包装用フィルム）
	セルロース	水溶性高分子
その他	その他	膜製品
	火工品	防衛関連製品

2021年3月期 業績予想

(単位：億円)

	2020/3 実績	2021/3 予想	増減	増減率 (%)
売上高	4,128	3,860	△ 268	△ 6.5%
営業利益	296	175	△ 121	△ 41.0%
経常利益	318	195	△ 123	△ 38.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	100	+50	+100.9%
為替レート USD/JPY	109	105		

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自動車の世界的な減産、スマートフォンの生産台数が大幅に減少するなど需要の減少を見込んでおり、ほぼ全ての事業に影響が出る中、特にインフレータ、エンジニアリングプラスチックの販売に大きな影響が出ると予想しています。

新型コロナウイルス感染症の影響については現時点で見通しが困難な状況ではありますが、業績予想では、上期に国内外の経済活動が大幅に制約を受けるものの、下期以降に徐々に回復する前提としております。

セグメント別 売上高・営業利益予想

(単位：億円)

売上高	2020/3 実績	2021/3 予想	増減	増減率 (%)
メディカル・ヘルスケア	151	155	+4	+2.7%
スマート	253	245	△ 8	△3.3%
セイフティ	748	610	△ 138	△18.5%
マテリアル	1,094	1,045	△ 49	△4.5%
エンジニアリングプラスチック	1,761	1,665	△ 96	△5.5%
その他	121	140	+19	+15.9%
合 計	4,128	3,860	△ 268	△6.5%

営業利益	2020/3 実績	2021/3 予想	増減	増減率 (%)
メディカル・ヘルスケア	13	5	△ 8	△62.7%
スマート	34	25	△ 9	△25.4%
セイフティ	33	0	△ 33	△100.0%
マテリアル	158	130	△ 28	△17.8%
エンジニアリングプラスチック	209	160	△ 49	△23.4%
その他	8	15	+7	+84.3%
全社	△ 159	△ 160	△ 1	+0.8%
合 計	296	175	△ 121	△41.0%

新長期ビジョン・新中期戦略

2021年3月期を初年度とする新長期ビジョンおよび新中期戦略につきましては、2020年6月上旬の発表を予定しております。

厳しい事業業績、激変する事業環境を踏まえ、新長期ビジョンでは「当社遺伝子として変えてはいけないこと」「大胆に変えなければいけないこと」を当社グループ従業員や関係者に示すとともに、バリューチェーンを構成するお客様、仕入先様などとの共創を通じて、社会に価値を提供することで成長していく私たちが目指す姿をお伝えします。

長期ビジョンの実現に向けて具体的な戦略に落とし込んだものが新中期戦略です。価値提供型組織・素材提供型組織への転換、ポートフォリオマネジメント強化などにより事業構造を変革させるとともに、PLに加えBSを重視した経営を実践してまいります。

なお、中期戦略は新型コロナウイルス感染症の影響により将来の見通しが困難な状況であるため、数値目標については発表を1年程度延期させていただき、今後の状況の推移に応じて、見直してまいります。

コストダウンの取り組み状況

当社は、既存事業強化による業績回復の取り組みとして、全社を挙げて徹底したコストダウンを進めてまいりました。2019年度の改善額につきましては、2020年3月期第2四半期決算発表の際にお示しした109億円の目標に対し、それを上回る約120億円を達成しましたが、一方で設備故障などによるロスが約16億円発生したことにより、結果は約103億円（達成率95%）となりました。

なお、2020年度につきましては、107億円を目標に鋭意取り組みを進めております。

グループ企業再編（新会社ダイセルミライズ設立）

当社では、4月の組織変更につき、7月にダイセルファインケム、ダイセルポリマー、ダイセルバリューコーティングの販売部門を新会社ダイセルミライズに統合いたします。この統合によりマーケティング活動におけるシナジーを追求する一方で、製造部門を当社マルチプルプロダクションカンパニーへ移管させることで、生産効率や品質、コストにおける競争力強化を目指します。また、自動車関連事業、機能フィルム事業をそれぞれの対面する市場に合致した、当社セイフティSBU、スマートSBUに移管し、お客様を主眼に置いた「マーケットイン」を強化することで、事業の成長を加速させます。

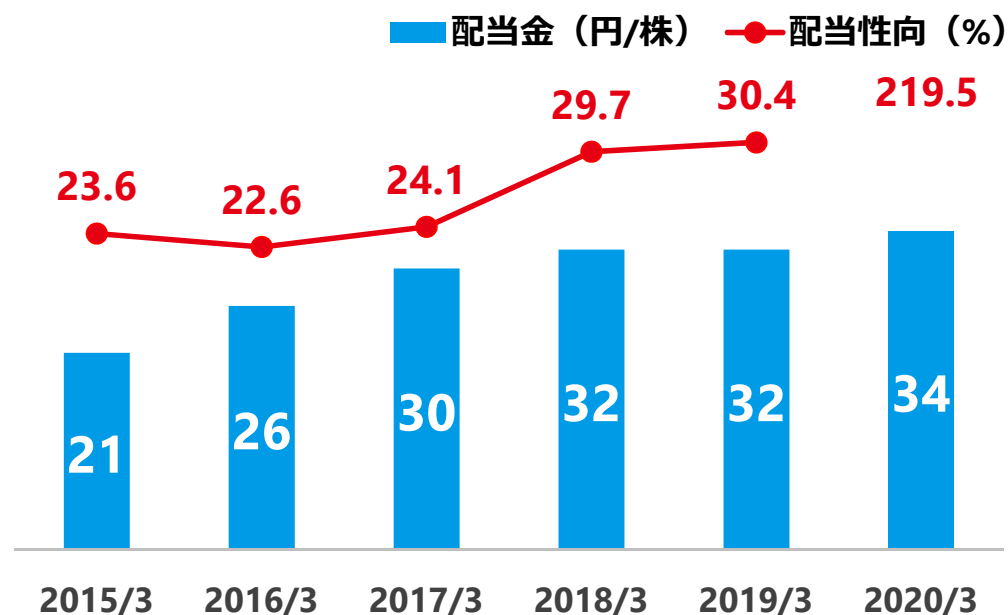
株主還元

2020年3月期

- 期末配当は、普通配当16円/株、記念配当2円/株、合わせて18円/株（年間配当 34円/株）
- 約594万株、約61億円の自己株式取得を実施（取得期間：2019年4月～8月）
 - ※2019年2月発表分の今期取得分
- 2,200万株、200億円を上限とする自己株式取得を実施中（取得期間：2019年11月～2020年7月）
 - ※2020年3月末までに約1,178万株、117億円の取得を実施
- 2020年3月に1,600万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 4.82%）

2021年3月期

- 現時点では新型コロナウイルス感染症の影響の見通しが困難な状況であるため、配当予想を未定としておりますが、安定的な配当を継続することを想定しております。



参考資料

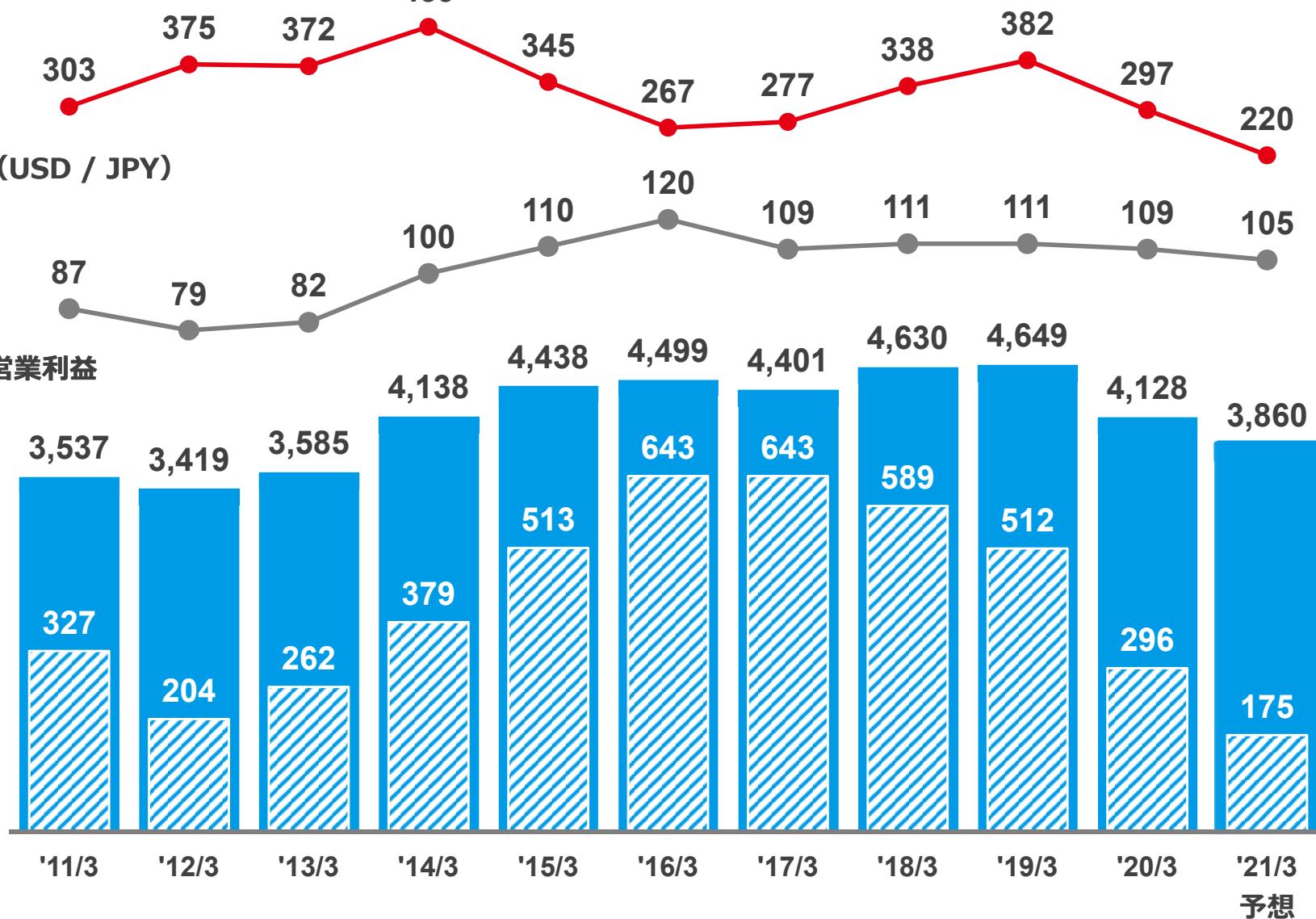
売上高・営業利益の推移・予想

(単位：億円)

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton) 439

● 為替レート (USD / JPY)

■ 売上高 / 営業利益



連結貸借対照表

(単位：億円)

		2019年 3月末	2020年 3月末	増減	備考
流動資産		3,540	2,980	△ 560	
	現預金及び有価証券	1,203	814	△ 389	
	受取手形及び売掛金	902	795	△ 107	
	棚卸資産	1,262	1,174	△ 87	
	その他	174	197	+23	
固定資産		3,008	3,000	△ 8	
	有形固定資産	1,974	2,043	+69	新規取得+455, 償却△270, 減損△141, 他+25
	無形固定資産	127	134	+7	
	投資その他資産	907	822	△ 84	
資産合計		6,548	5,980	△ 568	
負債		2,315	2,054	△ 261	
	有利子負債	1,043	928	△ 115	社債△100
	その他	1,272	1,126	△ 146	
純資産		4,232	3,926	△ 307	自己資本比率 60.6%
負債純資産 合計		6,548	5,980	△ 568	

連結損益計算書

(単位：億円)

	2019/3	2020/3	増減	増減率	備考
売上高	4,649	4,128	△ 520	△ 11.2%	
売上総利益	1,338	1,111	△ 227	△ 17.0%	
販売費及び一般管理費	826	814	△ 12	△ 1.4%	
営業利益	512	296	△ 215	△ 42.1%	
営業外損益	23	21	△ 1	△ 5.6%	
経常利益	534	318	△ 217	△ 40.5%	
特別損益	3	△ 151	△ 154	-	減損損失△ 130
税金等調整前 当期純利益	537	167	△ 371	△ 69.0%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	353	50	△ 303	△ 85.9%	
営業利益率	11.0%	7.2%	△ 3.8%		

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

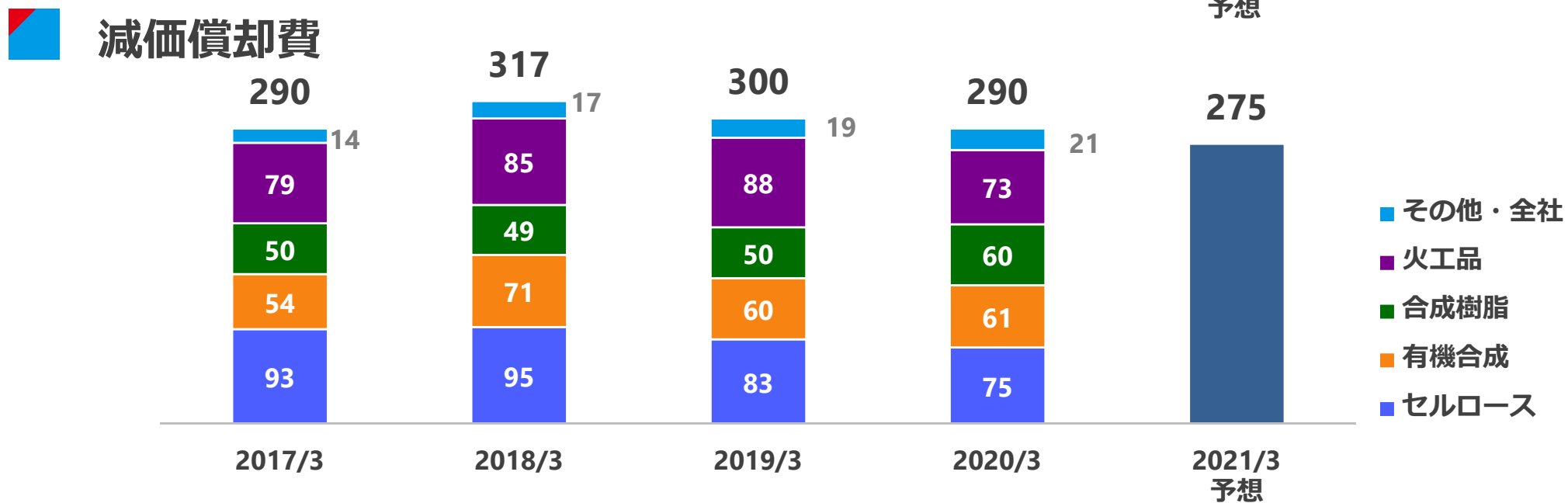
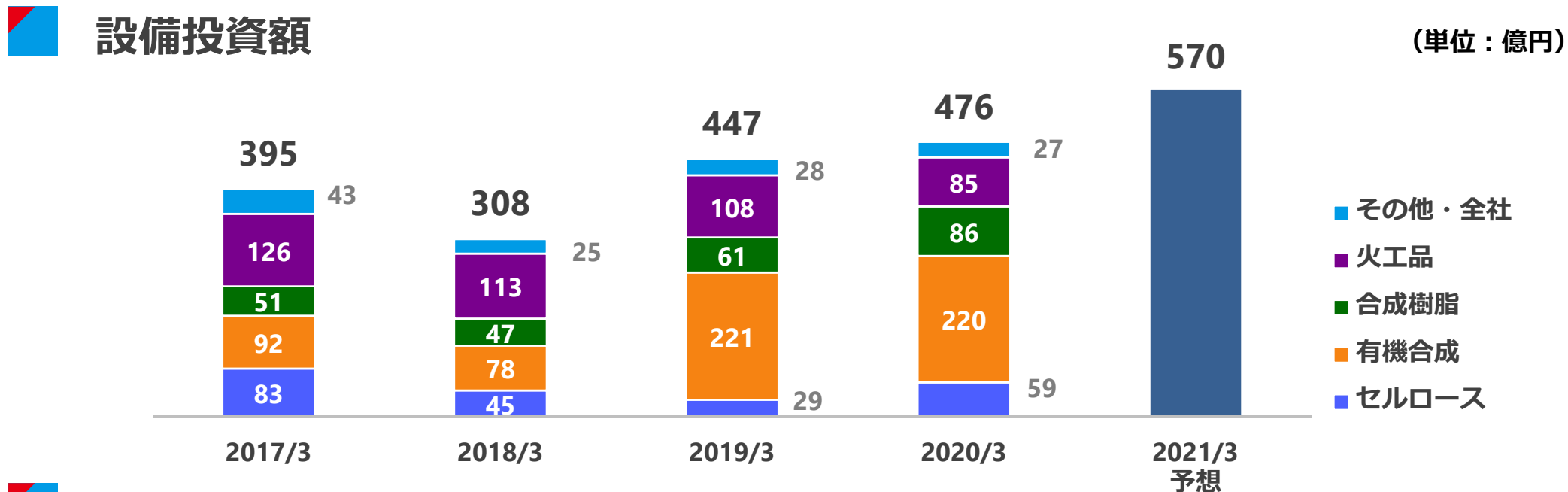
売上高	2019/3				2020/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
セルロース	199	221	224	188	182	197	183	196
有機合成	227	224	232	211	207	204	196	195
合成樹脂	441	454	457	406	414	431	421	391
火工品	273	282	277	247	214	209	197	193
その他	14	15	27	27	23	28	24	25
合計	1,155	1,197	1,217	1,079	1,039	1,068	1,021	1,000

営業利益	2019/3				2020/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
セルロース	39	47	44	31	33	30	20	32
有機合成	38	33	44	29	33	21	21	26
合成樹脂	59	60	51	37	53	64	38	46
火工品	50	48	49	9	13	10	6	5
その他	1	1	1	2	0	2	0	1
全社	△ 40	△ 41	△ 35	△ 44	△ 41	△ 41	△ 37	△ 40
合計	147	148	153	64	92	87	48	70

連結キャッシュ・フロー計算書

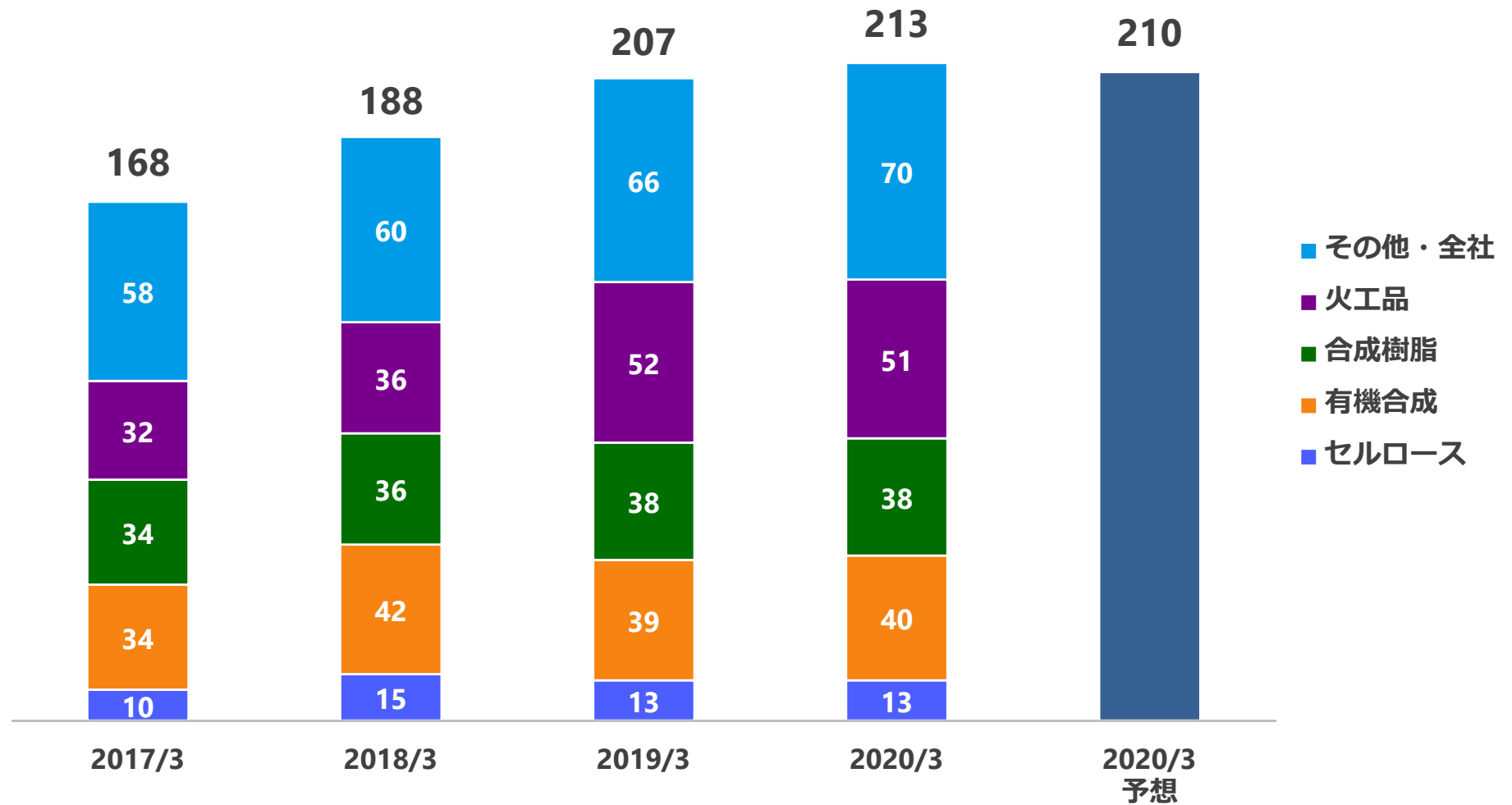
(単位：億円)

		2019/3	2020/3	増減	備考
	営業キャッシュ・フロー	585	572	△13	税金等調整前当期純利益△371 棚卸資産の増減+219、減損損失+130
	投資キャッシュ・フロー	△411	△459	△48	関係会社出資金の取得による支出+41 投資有価証券の売却及び償還による収入△34 有形固定資産取得による支出△25
フリーキャッシュフロー		174	113	△61	
財務キャッシュ・フロー		△256	△479	△222	長期借入による収入△105、 自己株式の取得による支出△48、 長期借入金の返済による支出△47
その他		△1	△28	△27	
現金及び現金同等物の増減額		△83	△393	△311	
現金及び現金同等物の当期末残高		1,200	807	△393	



研究開発費

(単位：億円)




 前提条件

		2019/3		2020/3			2021/3	
		上期実績	下期実績	上期実績	下期計画	下期実績	上期計画	下期計画
為替レート (USD/JPY)		110	112	109	107	109	105	105
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	403	360	277	250	245	220	220
	原油 ドバイ (USD/bbl)	73	65	64	61	56	25	25
	国産ナフサ (円/kl)	50,850	47,600	42,800	41,500	42,700	19,000	19,000

※ 2020年3月期 下期計画は2020年2月5日発表数値

買収防衛策の廃止

当社株券等の大規模買付行為への対応方針（買収防衛策）の非継続を決定しました。

当社は、企業価値の向上および当社株主様の共同の利益を守るための取組みの一つとして、2006年より買収防衛策を導入し、継続してまいりました。本年の有効期間満了にあたり、当社グループを取り巻く経営環境が大きく変化していること、買収防衛策に関する近時の動向、国内外の機関投資家をはじめとする株主の皆様のご意見、およびコーポレートガバナンス・コードの浸透といった状況も考慮した上で慎重に検討した結果、買収防衛策の必要性は相対的に低下したと判断するに至ったため、本年開催の定時株主総会終結の時をもって、買収防衛策を継続せず、廃止することといたしました。

なお、当社は、買収防衛策の有無に関わらず、2020年度から新たに始まる長期ビジョン、中期戦略の着実な遂行に注力することで株主様の共同の利益を確保し、中長期的な企業価値の更なる向上に取り組んでまいります。また、当社株式の大規模買付行為を行い、または行おうとする者に対しては、大規模買付行為の是非を株主の皆様が適切に判断するために必要かつ十分な情報の提供を求め、併せて取締役会の意見を開示し、株主の皆様のご検討のために必要な情報と時間の確保に努める等、金融商品取引法、会社法その他関連法令に基づき、適切な措置を講じてまいります。

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。